

なぜ、鬼石でゲストハウスを開業？

きっかけはニュージールランドでのワーキングホリデーです。それまで英語を生かしつつ、国際交流に携われるようなことをしたいと思っていただけ、何をやってみたいのか分からず、さまよっている状態でした。ニュージールランドで世界中のバックパッカーが集まるゲストハウスに宿泊したのですが、そこで交流が面白くて楽しくて。これこそ、僕が求めている国際交流だと思いゲストハウスをやろうと思いました。

帰国後、東京・品川にあるゲストハウスで3年間経験を積み、そこで出会った人から、「藤岡市鬼石地区は面白い」と聞いて、鬼石を訪れました。鬼石は山に囲まれてはいるけど、山深くなく、都会にもアクセスしやすいし、国内外のアーティストが鬼石に滞在して作品制作するアーティスト・イン・レジデンスの存在も大きかった。鬼石の人々は英語が堪能なわけでもないのに、国際交流に熱心で、そんな雰囲気にかれました。

移住してよかった？

僕はドラクエというゲームが好きなのですが、移住を決めた日からずっと、リアルな世界でドラクエを体験しているような気がしています。分からないことがあると、鬼石のAさんに話しかけ、Aさんから「Bさんなら知っているかも」と

「縁をたどると、まだまだ知らない群馬があった。」ので、

聞きBさんを訪ねる。BさんからCさんを紹介され、Cさんから答えとなる鍵をもらい、次のステップに進むような感じ。ご縁がご縁をつなげていく。それが楽しくて面白くて仕方ないです。

これからの移住者へ

まずは、元気に挨拶をすること。挨拶は地元の人との会話が生まれるきっかけになるはず。僕は地域の人に自分の顔を覚えてもらうことが大事と考え、いろいろなところに顔を出しました。地域の重鎮が集まる鬼石祭りの会合に飛び込み、「はじめまして、サントスです」と自己紹介。サントスは僕の修業時代のニックネームで、このインパクトある名前をきっかけに僕に興味をもってもらったのも大きかったと思います。人とのつながりや交流が増え、空き家を紹介してもらい、2020年4月、念願のゲストハウスをオープンしました。宿の名前も「さんと宿(す)」です。これからは、「さんと宿(す)」を拠点に群馬コンシェルジュになって、群馬の良さを日本中・世界に発信していきたいです。



Profile  
星野潤さん  
前橋市出身。2019年、地域おこし協力隊として藤岡市鬼石地区に移住。2022年2月、3年間の任期を終了。民泊や展示会もできる、田舎での暮らしを味わえる宿「暮らす宿ほしのいえ」をオープン。



「大切にしていきたい」が「つながり」があった。」ので、



Profile  
岩本哲さん(サントス)  
伊勢崎市境出身。2017年4月に移住。鬼石地区で働きながら、地域の人々とのつながりを広げて深め、2020年4月、鬼石ゲストハウス「さんと宿(す)」をオープン。

移住したいきさつは？

現在、藤岡市鬼石地区と実家のある前橋市の二拠点で、無添加・天然醸造がこだわりの米こうじを作り、味噌や塩こうじ、甘酒などの加工品販売のほか、味噌づくりのワークショップを行う、発酵案内人として活動しています。鬼石にはアーティスト・イン・レジデンスで何度も訪れたことがあり、上野村や埼玉県神川町に親戚が居たりしたので、馴染みのある町でした。

藤岡市の有機農家さんと出会ったことで、有機米を使った米こうじを作り始めたことが、藤岡市とつながったきっかけです。そこに地域おこし協力隊の募集があり、自分の活動と地域おこしが重なる部分があったので、応募し、2019年に藤岡市鬼石地区に移住しました。

都会と田舎での違いは？

群馬に戻る前は、東京・駒沢や京都で暮らしていました。都会との違いは、良くも悪くも人が近いことです。たとえば、友人が遊びに来たりすると、近所の人から「今日はいっぱい人が来ていたね」と声を掛けられます。また、「留守中

移住を決める前に必要なことは？

地域のイベントに参加してみることです。いきなり、地元の人に話しかけるのはハードルが高いですが、イベント時なら、話すきっかけは広がりますから。僕もアーティスト・イン・レジデンスで地域の話の聞いたり、地元の人が集まる「鬼カフェ」で地域の人とつながりを持つことが、鬼石ならいいかなと思えるようになったきっかけでもあります。まずは、その地域に通って、人と出会って、つながっていくことが第一歩。そして、どんどん交流人口を増やして欲しいと思います。

今後は？

古民家を購入し、「暮らす宿ほしのいえ」をオープンしました。ここを拠点にしながら、移住したいと思う人が地域とつながるためのきっかけの場所にしていきたいと思っています。

# 「自然にかなった生活をしたい。理想が実現する場所だった。」

**移住へのいきさつは？**

**移** 住を考えたのは、東日本大震災が起きたスーパードライなどを見て都会生活に不安を感じるようになりました。さらに、息子が1歳の頃、難病を患ったことで、食事を中心に生活を見直すため、自然栽培の野菜を育てたいと思ったのも契機です。



友人を通して神流町を知り、その友人から神流町にある畑を借りることに。それから、月に一度のほか、ゴールデンウィークや夏休みを利用して神流町を訪れ、旅館に泊まりながら、畑を耕し野菜を育てる二拠点生活を送っていました。

5年続いた二拠点生活に「ピリオドを打ったのは、「神流町に引越したい」という息子の言葉でした。私たちもいずれば移住したいと考えていたので、息子の提案に大喜び。2か月後には神流町に移住していました。

**神流町の魅力は？**

一番の魅力は、自然の中で暮らせること。朝起きて窓を開け、鳥のさえずりを聞

きながら、朝日を浴び深呼吸をする。シンブルなことですが、これが毎回感動もので、私たちの癒しになっています。私たちが理想としていた暮らしは、自然にかなった生活を送ることでした。木の家に住み薪ストーブで暖をとる、澄んだ空気を深く吸う。星空を眺め、農業に頼らないで野菜を育て、その野菜をいただく。今、理想とする自然のサイクルに沿ったシンプルな暮らしができています。

**今後は？**

移住してから物件探しに奔走しました。この町には、不動産屋さんがないので、物件を探すには、紹介してもらった

とが必須です。まずは、自分たちのことを知ってもらうため、町のさまざまな会合に参加しました。都会では、誰にも干渉されずに生活することも可能ですが、ここでは、人間同士の触れ合いがとても大事です。私は人と話すのが好きで、グイグイ懐に入っていき性格なので、都会より神流町の方が性に合っている感じがしています。

2021年9月、3階建ての物件を紹介してもらい、オーガニックレストラン、宿泊所、美容室をオープンしました。私たちのように、神流町で暮らしたいという人はたくさん居るはずですから、その人たちの願いを叶えるためにも雇用の場を増やしていきたいと思っています。

**Profile**

**管原 昌彦さん・まなみさん**

2020年8月、東京都から移住。2021年9月、自然派生活レシピ研究家であるまなみさんが調理する完全予約制のレストラン、1日1組限定の宿、美容師でもある昌彦さんが担当するヘアサロンを併設した「銀河の森」をオープン。小学3年の息子さんと3人暮らし。

**From ▶ 東京都北区**

**2 years**

**神流町**



**Profile**

**岸本 健さん**

2019年、神流川森林組合への就職を機に移住。幼少時代、神流町で昆虫採集などの遊び方を教えてもらう機会に恵まれた。現在、近所の子どもたちと昆虫採集に出かけ、自然の中での遊びを伝授している。

**From ▶ 神奈川県川崎市**

**3 years**

**神流町**

**今、どんなことをしていますか？**

**生** まれも育ちも神奈川県川崎市です。北海道にある大学を卒業した後、神流川森林組合に就職しました。大学で森林や自然環境についての勉強をしてきましたが、林業は初めて。先輩である親方に「林業とは何たるか」をしっかりと教えてもらいながら、森林の間伐作業などを行っています。

**なぜ、神流町に移住したのですか？**

神流町には祖母の実家があり、子どもの頃から毎年、遊びに来ていました。自然が好きで、釣りや昆虫採集など生き物オタクだった僕にとって、自然豊かで山も川もある神流町は、思い切り好きなことができた絶好の遊び場でした。当時から神流町に住みたいという思いが漠然としてあって、就職活動をしている時、神流川森林組合の求人を見つけて応募しました。

神流町には親戚がいて、よくご飯を食べに呼ばれています。今、組合の社宅でもある町営住宅に住んでいるのですが、帰ってくると、玄関に野菜が届けられていたり、好きに畑に出入りして、野菜を

持っていった方がいいよと言われてたり、近所さんも親戚のような感じで、みんなによくしてもらっています。知らない町に来たというよりは、子どもの頃から慣れ親しんだ縁のある、憧れていた町に帰ってきたという感じがしています。

**これからの移住者へ**

僕は都会より自然豊かな田舎が好きなので、神流町での暮らしはとても居心地がいいです。都会は人がいっぱい居るけど、ここは人が少なく、自然がいっぱい。都会より一人になれる時間は多いかもしれません。都会にはない人づきあいがあるのも事実です。

デメリットがあるとしたら、神流町には食事ができるお店がないこと。仕事終わりに、「ごはんを食べに行こう」ということは一切できません。また、コンビニもないので、出来合いのものを買うこともできません。僕は料理をするのが好きなので、全然苦ではありませんが、ここでは、生きていく必要最低限の料理スキルは必要かと思っています。

**今後は？**

今は日々スキルを覚えるのに精いっぱいですが、この町では貴重な若手だと思うので、親方から林業のスキルを学んで成長して、町に貢献できるような人材になりたいと思っています。

「ずっと、ここに住みたいと思っていました。憧れ続けていた町だった。」

